

つちだわ か こ
車椅子アスリート 土田和歌子 選手
第19回 全国車いすマラソン大会（兵庫県篠山市）
ハーフマラソン女子の部で優勝、男女総合3位

総合人材サービス企業の株式会社ヒューマントラスト(本社:東京都千代田区、代表取締役 阪本美貴子)の社員で、アテネパラリンピック金メダリストである土田和歌子選手は9月30日(日)、兵庫県篠山市で行なわれた「第19回全国車いすマラソン大会」のハーフマラソン出場し、女子の部で優勝、また男女合わせて80名中、3位の好成績を達成しました。

【土田和歌子選手（株ヒューマントラスト）競技結果】

ハーフマラソン(21.0975km)女子 1位 51分45秒

レース直後から飛び出した男子選手1名を追いかける第2集団の中で、他の男子選手2名と競い合い、途中1名が遅れをとったため、残り1名とともにゴール地点へもどるレース展開となりました。フィニッシュ前50mほどの地点で惜しくも差されましたが、総合で3位、女子ではダントツ1位を達成しました。

【土田和歌子選手 コメント】

「雨が降り続き気温も低い条件の中、グローブが壊れるアクシデントがあったものの、男子選手をマークして前を狙う作戦を、集中力をもって全うすることができました。走力があがったことを実感でき、満足のいく結果を残すことができました。」

【「第19回 全国車いすマラソン大会」概要】

主 催 : (財)兵庫県障害者スポーツ協会
開 催 日 : 2007年9月30日(日)
会 場 : 篠山城跡マラソンコース
土田選手 出場種目 : ハーフマラソン(21.0975km) < 9:00スタート 於・篠山市役所 北側 >

【土田和歌子選手（ヒューマントラスト）プロフィール】

1974年10月15日 東京都生まれ
高校2年の時、友人とドライブ中に事故に遭い、車いす生活に。

1993年アイススレッジの講習会に参加したことがきっかけで、日本で最初にアイススレッジスピードスケートを始める。

長野パラリンピックでは1500メートルで自身の世界新記録を更新し金メダルを獲得。1000メートルでも金メダル、100メートル、500メートルでは銀メダルを獲得した。

一方、陸上競技にも挑戦し2000年シドニーパラリンピック車いすマラソンで銅メダルを獲得。
2004年アテネパラリンピックでは、5000mで念願の金メダル、フルマラソンでは銀メダルを獲得。日本人初の夏冬「金メダリスト」となった。

東京都教育庁、セイコ・ハシモトインターナショナルコーポレーションを経て、06年11月、(株)ヒューマントラストに入社。結婚出産のため06年1月から10月まで一旦、競技生活から離れていましたが、11月に産後3ヵ月でトレーニングを開始。2004年アテネパラリンピックであと一歩のところまで達成出来なかった、5000mとマラソン2種目での金メダル獲得を目指し、2008年の北京へ向け挑戦を続けています。

【復帰後の実績】

- 2007年4月16日 第111回 ポストンマラソン(米国)
車いすの部 女子 1位 1時間53分30秒
[日本人女性初の優勝][パラリンピック北京大会 標準記録(2時間10分)突破]
- 2007年5月27日 第18回 日本身体障害者陸上競技選手権大会(大阪)
5000m (女子) 1位 12分27秒16
[パラリンピック北京大会 標準記録(14分00秒)突破]
1500m (女子) 2位 3分34秒54 [日本記録更新]
- 2007年6月17日 2007 はまなす全国車いすマラソン大会(札幌)
フルマラソン女子 1位 1時間56分39秒
[パラリンピック北京大会 標準記録(2時間10分)突破]
- 2007年7月1日 第12回 関東身体障害者陸上競技選手権大会(東京)
5000m (女子) 1位 12分32秒
[パラリンピック北京大会 標準記録(14分00秒)突破]
1500m (女子) 1位 3分41秒62 [大会新記録]
- 2007年9月1日 第11回 IAAF 世界陸上競技選手権大阪大会(大阪)
1500m (女子) 5位 3分39秒31



株式会社ヒューマントラストについて

1995年2月の設立以来、人材派遣、人材紹介、アウトソーシング、人事コンサルティングと順次事業を拡大、売り上げも順調に推移し、現在全国23拠点(2007年3月現在)でサービスを展開しています。従来、総合人材サービス企業として多様なニーズに合わせた人材活用を提案してまいりましたが、障害者の雇用促進を目的に、2007年3月、ヒューマントラストフロンティアを設立しました。土田選手は、同社の設立準備段階である2006年11月にヒューマントラストに入社し、まず当面は北京パラリンピックに向けた練習を活動の中心としています。そしてパラリンピック以降、本格的に障害者雇用促進プロジェクトの推進役として、自身の経験を活かしながら、「夢」、「家庭」、「就労」を両立させるような仕組みづくり、環境づくりに参画する予定です。

報道関係の方からのお問い合わせ先